

学 校 運 営

当校は、筋疾患、心肺疾患、精神神経疾患、重症心身障がい、その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする児童生徒、また身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする児童生徒が学ぶ、病弱特別支援学校である。

◎スローガン

『元気な病弱教育』

- ・子どもたちを元気に
- ・保護者も元気に
- ・教職員も元気に
- ・地域も元気に

(1) 目指す児童生徒の姿（校訓）と教育目標

校訓 : 仲よく 明るく たくましく

一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、個別具体的に応じた教育活動を行う。

(2) 教育方針

- ① 自分や仲間の生命がかけがえのないものであることを理解し、大切にする心情や態度を育てる。
- ② 人とかかわりを通して、気持ちや思いを自分なりの方法で表現し、主体的に取り組むことができる力の礎となる自己肯定感を育てる。
- ③ 自立と社会参加を目指して、確かな学力と生きる力を育成する。
- ④ 病弱教育のコア・スクールとして、教職員の資質や専門性の向上を図るとともに、センター的機能を発揮した支援を行う。

(3) 教育の重点

◎時勢の変化やコロナ禍を経て得た知見を踏まえ、持続可能な教育活動を進める基となる内規の再整備、及び児童生徒と保護者と教職員、そして地域がつながりのある教育実践を具体的に展開していく。

① 児童生徒を守りきる安心・安全な体制の整備・推進

- ・コロナウイルス、インフルエンザ等の、感染防止対策を確実に行う。
- ・隣接する長良医療センターとの共助に基づいた児童生徒の急変時及び災害時等における緊急時応の体制を随時最適化し、児童生徒、教職員、保護者等の災害時の即応能力の向上を図る。
- ・人工呼吸器による医療的ケアのあり方について県教育委員会と連携しながら整理・改善を進める。
- ・ヒヤリハット報告の蓄積に努め、再発防止に必要な原因と対策の共通理解を図り、フィードバックする。

②人とかかわりを通して、豊かな表現力、自己肯定感を育てる教育の推進

- ・日常の教育活動において、児童生徒の発達段階等に合わせて表現方法の課題を意図的に設定し、働きかけを行い、豊かなコミュニケーション能力を育てる。
- ・居住地校や地域をはじめ様々な交流活動等において、ICT機器を積極的に活用し、さらに新しいスタイルを工夫しながら交流の場を設定し、豊かなコミュニケーション能力や自己肯定感を育てる。

③確かな学力と生きる力を身に付けることができる病弱教育の充実

- ・カリキュラムマネジメントによる児童生徒一人一人の課題に迫る授業づくりに取り組む。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を充実させるため、ICT機器等を活用した授業改善に取り組む。
- ・教職員自ら課題意識をもち、公開授業及び参観等を通じた自己研究及び校内研究に主体的に取り組む。

④病弱教育の理解啓発の推進

- ・保護者に対して、小学部の段階からキャリア教育の意義や重要性を理解していただけるような情報発信、啓発活動を継続・発展させる。
- ・病弱教育を必要とする児童生徒のニーズを把握し、病弱教育の理解啓発、充実を図るために、各特別支援学校の地域支援センターや病弱の特別支援学級、高等学校との連携、市町村教育委員会、小・中学校、医療機関等への広報や支援、研修の一層の推進を図る。
- ・学校ホームページで積極的な情報発信をし、広く病弱教育の理解啓発やニーズの掘り起こしにつなげる。
- ・校内外の研修体制の整備を継続し、病弱教育に携わる教職員として必要とされる専門性の向上を図る。

(4) 各部の教育目標

小学部	<p>(1)個別最適な学びの充実を図り、児童が主体的に取り組む授業づくりを行うとともに、学級・グループを超えた部内の友達や部を超えた友達等、他者と協働しながら活動する取組を行う。</p> <p>(2)通学する児童と訪問教育を受ける児童との、直接的、間接的な交流の機会を計画的に実施し、交流を深める。</p> <p>(3)児童の健康状態や配慮事項、医療的ケアに関する情報を教職員間で共有し、児童の安心・安全な教育活動の実施に努める。</p>
中学部	<p>(1)日常的な情報共有から、安全・安心な教育環境を整える中で個に応じた思考力や判断力、表現力、確かな学力を育成する。</p> <p>(2)校内での交流やICT機器を活用した地域交流の場を設定し、人とかかわりを通して豊かな表現力や自己肯定感を育てる。</p> <p>(3)医療機関や福祉関係、他校との連携や、病弱教育に関わる研究・研修を通して専門性の向上を図り、協働して授業改善等実際の具体的な支援に生かす。</p>
高等部	<p>(1)生徒の病気や障がいについての理解を深め、学習面への支援、心理面への支援を重点的かつ丁寧に行う。</p> <p>(2)効果的な学習を行うための学習計画やグループ編制を工夫する。</p> <p>(3)家庭や関係機関と連携して健康支援・キャリア支援を行う。</p>

(5) 教育指導の重点

教科指導	<p>◎教育目標に基づき、かつ児童生徒の実態に応じた指導内容を精選し、確かな学力を身に付けることができるよう、指導の工夫と充実に努める。</p> <p>・児童生徒の学習環境を整え、学習意欲を高めるため、教材・教具の工夫やタブレット端末を中心としたICT機器を活用する。</p>
道徳教育	<p>◎こころ豊かにたくましく主体的に生きる力を育み、児童生徒がキャリア発達の課題を達成しつつ、仲間と共によりよく生活しようとする意識と態度の向上を図る。</p>
特別活動	<p>◎「金華祭」や「夢発信！ながらドリームアート展」、各種作品展への出品等、創作活動や表現活動を通して心のエネルギーを引き出す取組を行い、自己肯定感を育てるとともに、豊かで生きがいのある生活を送るための支援を推進する。</p>
自立活動	<p>◎児童生徒一人一人の病気や障がいの実態を踏まえ、個別の指導計画を作成し、教育実践を通して社会の中で人とかかわる力を育み、児童生徒一人一人の自立を目指す支援の充実に努める。</p>
総合的な学習・探究の時間	<p>◎社会、自然、自身の生き方や進路等について自ら課題を見付け、主体的に問題解決する資質や能力が育つよう、学習活動の充実を図る。</p>
生徒指導	<p>◎安全・安心な学校生活を送るため、登下校時の安全指導、校内外における交通安全、情報モラル、防犯等に係る体制作りや危機管理意識を高めるための研修等を行う。</p> <p>・人権感覚を磨くとともに、受容的な支援を行うことができるよう、スクールカウンセラーと連携し、計画的・積極的な教育相談活動や研修を行う。</p>
進路指導	<p>◎教職員一人一人のキャリア教育の実践力を高め、その成果を学校教育活動全体の中で発揮できるように体系付ける。</p> <p>・家庭支援、進路支援、関係機関との連携、追支援等様々なニーズに応じたキャリア支援体制の強化を図る。</p> <p>・早期からキャリア教育の意義や重要性に対する理解が深まるよう情報発信、啓発活動を行う。</p>
健康教育	<p>◎児童生徒の健康の維持増進を図るとともに教職員の危機管理意識を高め、安全・安心な学校生活の体制づくりを推進する。</p> <p>・児童生徒の健康管理と衛生管理を徹底し、保健教育を充実する。</p> <p>・安全な給食実施を推進し、健康で安全な生活を実現しようとする態度を育てるために食育を充実する。</p>
防災教育	<p>◎防災対策マニュアルの改善と周知を図り、避難先や避難方法を工夫した訓練を実施することで、自ら判断して行動できるよう、訓練を行う。</p>